

安曇野周辺を尋ねて

設楽町文化財保護審議会が合併して最初の県外研修を五月二七日〜二八日の二日間で行いました。研修場所と研修目的は長野県の安曇野と東筑摩郡生坂村の文化財を見て歩くことにより、今後設楽町の文化財に対する考え方と保存伝承の指標とするために行ないました。

安曇野の石仏は道祖神をはじめめすこぶる大型の物が多く、保存状態も良好でした。道祖神については歌にまで唄われ良く知られてはいますが、周辺の都市化により尋ねることに時間を費やすようになったことは事実であります。以前の研修では容易に見付けだすことができた道祖神も今回は見いだす事に手間取りました。希望したいことは最小限度でいいから案内板を設けてほしい事でした。

道祖神祭の実態は把握できませんでしたが、道祖神に施されている化粧の色彩が見られることから考えられることは、しきたりによる年中行事として、その所在町村が伝承しているものと思われました。

参考になった事は都市化が進む中で、道路拡張などのため場所を移転されることが少なかつたことです。道祖神信仰の観点

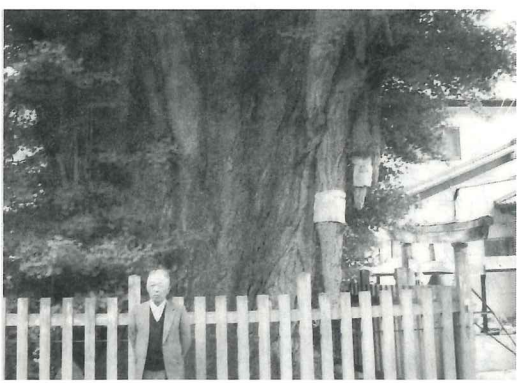
から、場所を移転することによりその意識がまったく分からなくなってしまうからです。江戸時代に盛んであったこの信仰の意義は、江戸時代の風習であった男女の愛し合う姿は恥ずかしい姿であるという考え方から、村の境にこの男女が抱き合い、あるいは祝言をするため杯を交わす姿、または男女が握手する姿などの像を祀りこみ、このようないふ事や平然と行い人目をはばからぬ村へはとも恥ずかしくて入ることができないと、疫病・押し売り・泥棒・その他諸々の全ての悪を村境で拒絶するための信仰です。



こうした観点から参考にしたい

ことは、設楽町においても、馬頭観音をはじめ庚申像・庚申文字碑・地藏尊像など多くの石神仏が最初に祀られた場所にはそれなりの理由と根拠があることを考えて、止むを得ず移転を余儀なくされる場合は、でき得るかぎりの配慮をした最小限の移転に止めることが必要であると思いました。

地上の文化財は比較的保存方法が考慮されやすいとは思いますが、埋蔵文化財については全てを発掘調査することは困難が伴い、ある程度の犠牲が生じることも覚悟をしなければならぬ事も事実であります。設楽町は計画の進んだ設楽ダムという大事業が目前に迫っています。最小限の影響に止めるように努力しなくてはなりません。



安曇野を後にして犀川を渡り東筑摩郡生坂村へ車を進めました。狭い道幅と曲がりくねった県道を進むと、道路下の観音堂境内に長野県指定の樹齢推定八〇〇年といわれる乳房イチョウの大木がありました。樹勢はすこぶる良好で保存状態が良く、新緑の季節とあって清々しい気持ちにさせられました。場所は傾斜地に在りながら、見学者の便を

考えてすぐ近くまで車が乗り入れできるようにし駐車場も完備されていました。乳房イチョウの説明板も整備されて見学の便が計られていました。

乳房イチョウの名の起りはイチョウの枝から垂れ下る乳房に似た形から呼ばれるようになったものでしょう。

生坂村は小さな村ではありませんが多くの遺蹟が存在するようであります。しかし、丁寧な案内書を頂いたにもかかわらず、道路事情により現地まで辿り着けず、時間の制約から多くの場所が見学を断念せざるを得ず先に車を進めました。

宿泊場所に向かう途中予定外の場所に寄ることができ、多くの研修ができました。

生坂村のマップで感じたことが、事細かな案内ではありましたが、案内のされた道路の状態も付記されると都合が良いので

はと思い、設楽町においてもマップ作成時には細部に気を配った観光案内が必要であろうと考えました。

翌日は国道一九号線を下り、奈良井宿を見学いたしました。宿場町は旧道添いに現存していますが、ほとんどの家が屋号で呼ばれ、旧家の面影を漂わせており、この町並みの中に五つの寺と三つの神社が存在した事にも考えさせられました。距離にして五百〜六百メートルの短い町並みでこの数の神社仏閣を維持するには、計り知れない努力と町民全体の協力態勢が整わないと困難であろうと思いません。木曾山中よりこんこんと湧き出す清水が、旅人の喉を潤して、長い旅路の疲れを癒したであろうと昔が偲べる場所も残されていきました。

この宿場はすぐ近くにある贊川関所の影響も受けていたであろうと考えられ、町中の大宝寺には隠れキリシタンのマリア地蔵も現存し、往時の圧政によるキリシタン取締の様子が窺えます。古いもの事をなおざりにせず参考にして良い町作りに専念したいものです。二日間の短い研修ではありましたが、多くの教訓を得た研修旅行でした。

文化財保護審議会 今泉宗男